

ここに注目！ 女性と若者の参画により、さまざまなイベントを実施、持続的な商店街のにぎわいを確保する。



ポイント

栄町市場商店街は「人にも地域環境にも優しいマチグワー(市場)」をテーマに掲げ、身の丈にあった運営の商店街を目指している。平成19年から毎年6月～10月の最終土曜日に「栄町市場屋台祭り」を継続して開催し、1日500人～700人ほど集客をもたらし、参加者は年々増加。地元客及び観光客の交流の場となっている。

さらに、市場で働く女性で結成された「おばあ*ラッパーズ」など、有志によるミュージシャンが祭りを支え、衰退していた市場への集客・活性化に成功している。

*おばあ: 沖縄方言でおばあちゃんの意

[商店街概要及び取組の背景]

懐かしい昭和のたたずまいを残すまち

栄町市場は、戦後の復興時に誕生し、現在もなお、当時とほとんど変わらぬ姿で現存している商店街であり、昭和60年に法人化し、現在に至っている。庶民社交街が隣接しており、4,400坪と比較的狭い地域に小さな商店がひしめき合ってきた近隣型の商店街である。しかし、近年、大型スーパーの進出により衰退、再開発計画も出たが、音楽などによる活性化の取組に努力し、今日の賑わいを生み出している。

[取組の概要・効果]

Plan・Do

まちの魅力を活かし活性化

毎年6月～10月の最終土曜日に「栄町市場屋台祭り」と称し、商店街の通路に特設舞台を設け、多数のボランティア参加のもと、音楽・ダンスイベント等のステージを開催。中でも、商店街で商売を営む3人組「おばあ」のユニットがラップのリズムで商店街ソングを披露し、そのユニークな演技が栄町市場を有名にしている。



イベントで賑わう商店街

さらに、栄町市場にゆかりのあるアーティスト、デザイナーその他様々な人達が、ボランティアとして参加したオムニバスCDの制作により、市場の知名度が高まり、県内外からこのまちの魅力に惹かれ多くの客が訪れ賑わいを見せている。

また、平成18年に国の補助金で設置したエコステーションは、現在、組合が家賃を負担し運営しており、地域住民や買物客の休憩所となっている。

[効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

昼間の賑わい創出へ向けて

継続的なイベントや魅力ある独自の音楽等による取組が功を奏し、平常時の来街者についても増加しているが、屋台まつりを中心とした夜の賑わいに比べ、昼は集客が少ないという課題が指摘されていることから、組合では、現在、買物客の交流の場として利用されているエコステーション店舗前空間の活用や昼間のイベントの開催など、昼間の活性化について新たな取組を検討しているところである。ただし、小さな市場でもあるので、身の丈にあった活動を心がけている。

[実施体制]

「市場全体」一丸となった取組

栄町市場商店街では、事務局を中心に、市場商業者、ボランティアの協力により市場全体が一丸となって屋台まつりを実施しており、運営については、10人ほどの若手メンバーが中心に取り組んでいる。若手メンバーは、定期的に勉強会を開き、屋台まつり以外にも市場の諸課題への対応を検討している。

また、39人が在籍する婦人防火クラブも設置し、女性の参画・活動も活発である。

さらには、再開発協議会に組合も関わっており、商店の地権者との話し合いの再開により、地権者とともに商店街の活性化に取り組もうとしている。

基本データ

所在地：沖縄県那覇市安里

会員数：87名

店舗数：125店舗

関連URL：<http://sakaemachi-ichiba.net/>



おばあラッパーズのライブ



キーパーソン

栄町市場商店街振興組合
副理事長 山田 哲史

栄町市場の魅力“空気感”にひかれ

私自身、栄町市場では2006年12月から店舗をオープンし市場の一員となりました。市場が生活圏内にあり良く買物に来ていて、こういう料理をつくりたいと言うと、それに合った野菜などをしっかり出してくれるし、なにより買い物しながらのコミュニケーションの場があることがとても魅力でした。

コーヒーショップをやろうと思ったときに、一人一人のお客さんと話しながらコーヒーを出したいというイメージにこの場所がすごくマッチしていました。他にはない独特の暖かい雰囲気、それでいてここは地元の市場としてきちんと動いていて、この空気感が人との距離を縮めてくれます。

組合では、屋台まつりを6年続けていますが、始めは小さな規模でのスタートでしたが、おばあラッパーズが結成され、CDを出したり映画をとったり、これら仕掛けを、戦略をもってしっかりやってきたことで、徐々に魅

力のある店舗が増え、今の賑わいに繋がっています。そして何よりも継続こそ大事ということです。

将来の市場のため若い世代で声を出すこと

この市場の良さは、何よりコミュニケーションの取りやすい空間、お互い壁がないところ、それこそ栄町の歴史が作り出してきたものだと思っています。この密集した古い街並みは、仕事で訪れたヨーロッパの街にも劣らない、むしろそこよりもいいと自負しています。

「昼も元気、夜も元気」のイメージで、この市場の雰囲気は残しながら、他との差別化を図り、地元のお客さんはもちろん、観光客、より個性的なファンにもリポートして頂けるような市場を目指しています。

これからの20年～30年先のまちを担うのは、自分達若い世代なのだから、今、意見を言うことが大事だと思っています。その気概なくして将来の栄町市場はないと私は思っています。